私の愛する金次郎

KINJIRO NINOMIYA

二宮金次郎（尊徳）の「報徳思想」は、日本的経営の源流として、
多くの経営者・実業家の事業経営に影響を与え続けている。

金次郎の蓄財に学んだ「銀行王」

「私の資産を作った一大原因は『分限を守る』という決心を堅く実行したためである。…二宮尊徳翁の教えにも分限論はよほど懇切に説いてある。翁の説は10分の5をもって生活し、その余を蓄えよ、としてある」

（『尊徳開顕』／有隣堂）

安田 善次郎
1838～1921
（安田財閥 現みずほ銀行）

安田 善次郎

日本屈指の名銀行家。創業した安田銀行は長年日本最大の資金量を誇り、生命保険会社や損害保険会社なども設立、日本の金融界に確固たる地位を築いた。『報徳記』を座右の書とし、尊徳の「分限」を生涯実践し続けた。

金次郎を尊敬した「日本最大の起業家」！

「二宮先生の遺法は…わが国家の財政上にこれを応用いたさねばならぬと考える。あくまでも先生の遺されたる以上四ケ条の美徳（至誠、勤労、分度、推譲）の励行を期せんことを希うのであります」

（講演『二宮先生の遺法』より）

渋沢 栄一
1840～1931
（“日本資本主義の父”）

渋沢 栄一

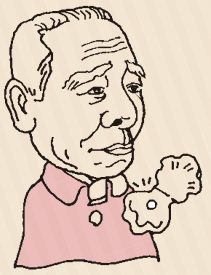
第一国立銀行創立、さらに生涯に500社近くの民間会社設立にかかわる。尊徳の「道徳経済一元論」に通ずる独自の「論語算盤説」はドラッカーにも激賞された。

金次郎に憧れた「真珠王」

「わしは、志摩の尊徳になりたい。尊徳が陸でやっていたことを海でめざしたい」

（『真珠王からのメッセージ』／御木本真珠島）

尊敬する二宮金次郎を自身になぞらえ、故郷志摩の開発に私財を投じた。



御木本 幸吉
1858～1954
（ミキモト）

御木本 幸吉

真珠養殖に成功し、世界の真珠王と言われた。「二宮翁夜話」を熟読するなど、二宮尊徳の信奉者として知られ、尊徳の生誕地を私費で買い戻すこともした。

金次郎に倣い、質素倹約！

「尊徳先生は、『至誠を本とし、勤労を主とし、分度を体とし、推譲を用とする』報徳実践の道を唱えられ、実行に移されたのでありますが、その手法は極めて科学的であり、経済の論理にかなうものでありました」

報徳博物館建設の賛助委員会委員長を引き受けた際の言葉

土光 敏夫
1896～1988
（石川島播磨重工業・東芝）

土光 敏夫

石川島播磨重工業、東芝の再建に力を尽くした名経営者として知られる。尊徳に倣い質素倹約を心がけ、その質素な夕食から「メザシの土光さん」と言われた。報徳博物館賛助委員会委員長。

“経営の先駆者“として金次郎を尊敬！

「楽観的に見るなら、心が躍動し、さまざまな知恵や才覚がわいてくる、ということを尊徳翁はいいたかったのでしょう。
ぼくもその通りだと思います」

「二宮翁夜話」の挿話に触れて（『PHP』昭和60年12月号）

松下 幸之助
1894～1989
（パナソニック）

松下 幸之助

「経営の神様」また「昭和の二宮尊徳」としても知られている。その経営哲学は二宮尊徳の報徳思想から多くの影響を受け、社内外で訓話としてしばしば金次郎の話をした。後に報徳博物館建設を推進。

晩年、金次郎を高く評価！

ドラッカーは晩年、金次郎の報徳仕法を基礎とした大学の最高顧問になる予定だった。「先進国や社会主義国にも適応できる思想だ」と高く評価し、英語文献を根こそぎ送ってほしいと要望していた。

（『二宮尊徳に学ぶ「報徳」の経営』／同友館）

ピーター・F・ドラッカー
1909～2005
（経営学者）

ピーター・F・ドラッカー

経済界に最も影響力を持つ経営思想家。マネジメントの主な概念と手法を生み、発展させたマネジメントの父。著書は“経営の教科書”として世界中の経営者が愛読している。

参考　『二宮尊徳に学ぶ「報徳」の経営』（田中宏司、水尾順一、蟻生俊夫編著／同友館）、『教養として知っておきたい二宮尊徳』（松沢成文／PHP新書）

ビジネスパーソンのヒントになる!

「金次郎の仕事術」

ビジネスアイディアに満ちた、知恵と工夫の人でもあった金次郎。
その姿は、映画「二宮金次郎」にも描かれている。
その仕事術の一端をご紹介。

仕事術01 「分度」で、数値を「見える化」し、根本から改善!

自分の収入の範囲内で生活し、余剰は投資しなさい

農民は無計画に日々暮らし、家計簿をつけない。その農民に「分度」を立てさせて、生活を変革していった。分度とは、収入の範囲内で支出限度を定めて生活することを指す。それは農民の家計を「見える化」したともいえる。この考えを、藩や国レベルでも応用すべきと金次郎は考えた。

仕事術02 チームビルディングの秘訣は、「村民投票」と「表彰制度」にあり!

あなたは、他の者に抜きんでて、丹精の働きをしました

善行者の表彰をさかんにおこなったが、農民相互の投票制度として、やる気を奮い起こさせた。更に褒美として、農具や馬や牛まで買い与えたが、それは金次郎の私費であり、それを知った農民たちの心を強くつかんだ。

仕事術03 ファイナンシャルプランナーとして1人ひとりのやる気を引き出す!

五本の薪を、三本でやるように工夫しなさい。二本は私が買いあげます

借金を申し込んできた女中には、ただお金を貸すのでなく、倹約が確実に利益を生むこと、その楽しみにも気づかせた。「薪五本使っているなら、三本に。二本は私が買う」「釜の底の煤もこすり落とし、火が通るようにしなさい」と伝えた。

仕事術04 徹底した現地調査とデータ主義

桜町領の現状は調べました。これが目標とする収穫高です

金次郎の綿密な調査に基づいた、数値目標設定には強い説得力があった。例えば、桜町領では過去の年貢帳を分析し、復興計画を提出した。その際、年貢4,000俵から2,000俵への引き下げを実現したが、当時としてはありえない画期的なことだった。

参考『二宮尊徳の遺訓』(松沢成文・鴻谷正博共著／ぎょうせい)　※写真は、すべて映画「二宮金次郎」より